

➤ **SSバリュー加盟研修会資料**
～ SSバリュー（耐震等級3）設計について～

◆プランニング時のチェックリストについて

～ ビジュアルチェックリストのご紹介 ～

本チェックリストの目的

お施主様との打ち合わせにおいて「耐震等級3が取れるかどうか分からない…」「せっかくプランが固まってきたのに耐震等級3が取れないから一からやり直し…」なんて経験した方もいらっしゃると思います。

このビジュアルチェックリストを使用することで、どんなプランがNGなのか、どこが危険なのか直感的に判断できます。それにより耐震等級3が取得困難なプランを回避し、無駄な手戻りを削減することを目的としております。

目次

- P.2 本チェックリストの目的・目次
- P.3 こんなシーンに遇ったことはありませんか？
- P.4 NG項目チェックリスト
- P.5 要注意項目チェックリスト

こんなシーンに遇ったことはありませんか？

ビジュアルチェックリストを使用することで耐震等級3のプランニングがとってもスムーズになります

加盟店様外秘

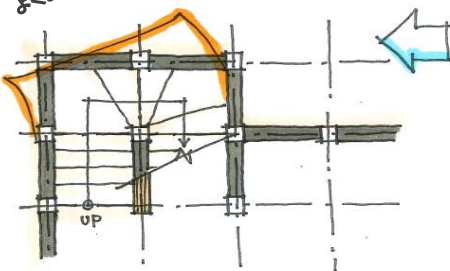
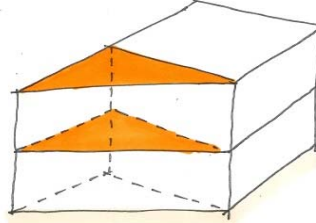
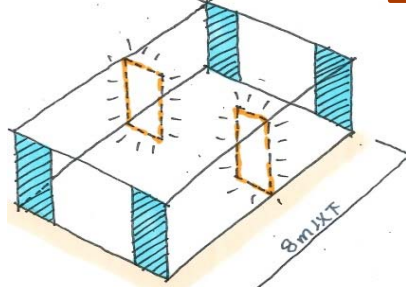
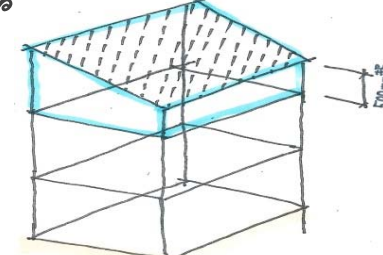
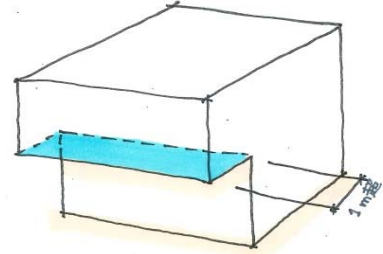
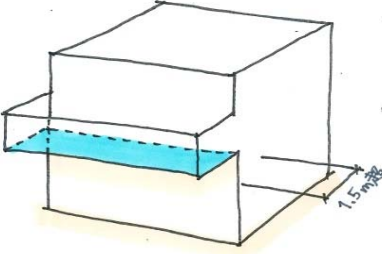
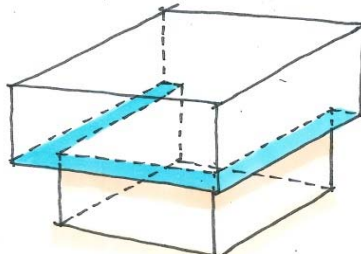
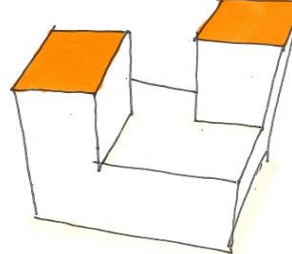
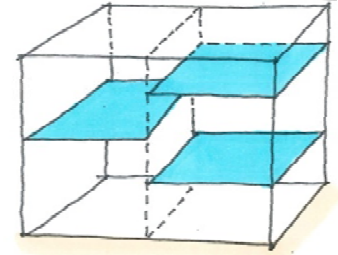
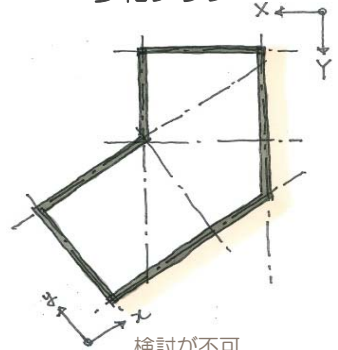
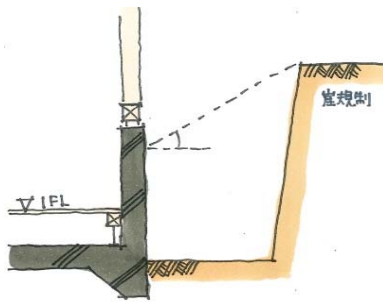
BEFORE

AFTER

～NG項目チェックリスト

下図に該当する形状は耐震等級3を満たせません
プランの変更が必要となります

加盟店様外秘

<p>階段室突出 <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p>  <p>床がない部分突出するとNG</p>	<p>斜め形状 突出 <input type="checkbox"/></p>  <p>三角形の床は剛性なしとなるため突出するとNG</p>	<p>8m以内に壁なし <input type="checkbox"/></p>  <p>基準により耐力壁線の間隔は8m以下</p>	<p>2階小屋総桁上げ <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p>  <p>500mm超えはSS/バリュー基準により3階建扱い</p>
<p>上階が1m超えオーバーハング <input type="checkbox"/></p>  <p>SSバリュー基準によりNG</p>	<p>1.5m超の跳ね出しバルコニー・屋根 <input type="checkbox"/></p>  <p>SSバリュー基準によりNG</p>	<p>上階が3方向オーバーハング <input type="checkbox"/></p>  <p>SSバリュー基準によりNG</p>	<p>ツインタワー <input type="checkbox"/></p>  <p>小屋レベルが分離する形状は検討が不可</p>
<p>完全分離スキップフロア <input type="checkbox"/></p>  <p>検討が不可 (構造計算にて可能か要確認)</p>	<p>多軸プラン <input type="checkbox"/></p>  <p>検討が不可</p>	<p>土留基礎 <input type="checkbox"/></p>  <p>衝撃荷重は外力として規定がないため計算不可</p>	<p><input type="checkbox"/></p>

要注意項目チェックリスト

下図に該当する形状はプラン変更の可能性があります
ご不明点はLIXILへご相談ください

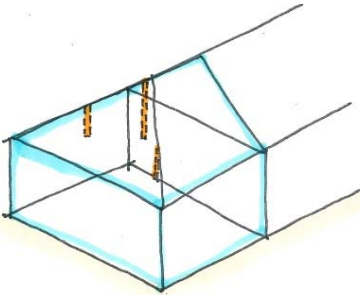
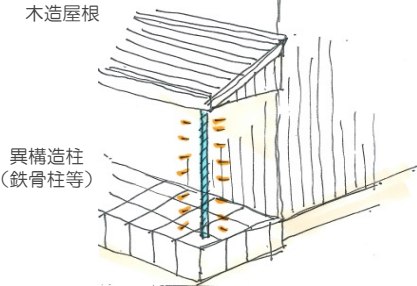
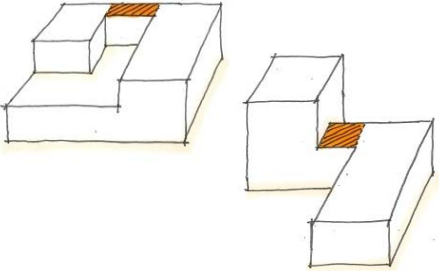
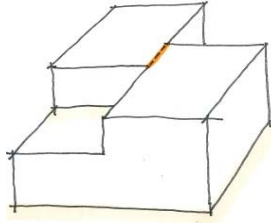
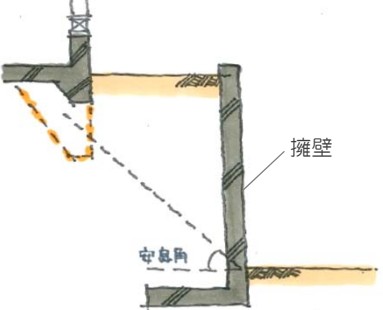
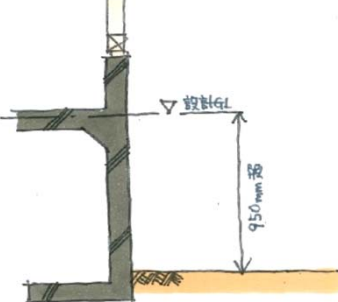
加盟店様外秘

<p>ガレージ 大開口 <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>3.5m幅</p> <p>開口周りの壁配置の検討必要</p>	<p>大空間 <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>5m幅</p> <p>5m幅</p> <p>柱無し</p> <p>5m×5mを超える柱無し空間は梁組・基礎補強筋・地中梁等の計画に無理が生じる</p>	<p>出隅部の大きな吹き抜け <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>void</p> <p>表し火打や表し梁配置の可能性</p>	<p>耐力壁のバランス <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>4m</p> <p>耐力壁</p> <p>出隅から4m以内に耐力壁が無いと建物の弱点となる</p>
<p>突出吹抜 <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>void</p> <p>床がない部分が突出するとNGとなるため吹抜けに火打や床を設ける必要あり</p>	<p>2階浴室 突出 <input type="checkbox"/></p> <p>浴室下に火打や床を設ける必要あり</p>	<p>床が少ないプラン <input type="checkbox"/></p> <p>よくある</p> <p>void</p> <p>void</p> <p>階段・吹き抜け等、床がない部分が並んだ箇所が弱い</p>	<p>一方向床なし <input type="checkbox"/></p> <p>hall</p> <p>void</p> <p>建物の端～端まで床が無いと吹抜け内に火打ち・梁・床等で補強の必要あり</p>
<p>1/4バランス <input type="checkbox"/></p> <p>1/4</p> <p>1/4</p> <p>1/4バランスが満たせない形状注意</p>	<p>葺きおろし部が吹抜のみ <input type="checkbox"/></p> <p>2F</p> <p>1/4</p> <p>1/4</p> <p>void</p> <p>1F</p> <p>1350mm</p> <p>2階1/4バランスを満たすのが困難</p>	<p>斜め壁 <input type="checkbox"/></p> <p>斜めの梁で構成される床は剛性なしで計算 また、梁・柱組が困難</p>	<p>スキップフロア・階間収納 <input type="checkbox"/></p> <p>Sfo.</p> <p>力の伝達を考慮して柱配置に制限が発生</p>

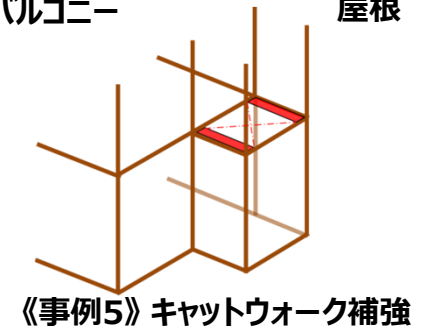
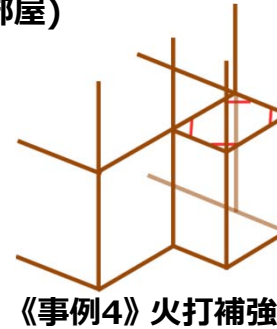
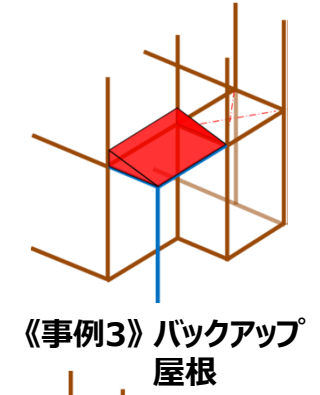
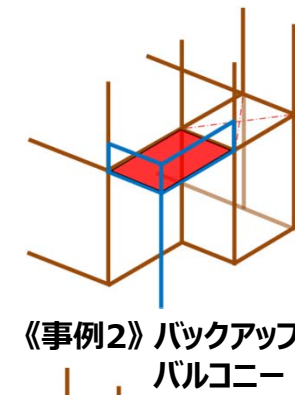
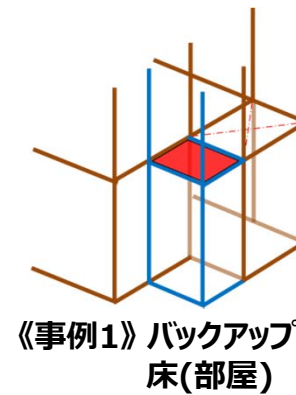
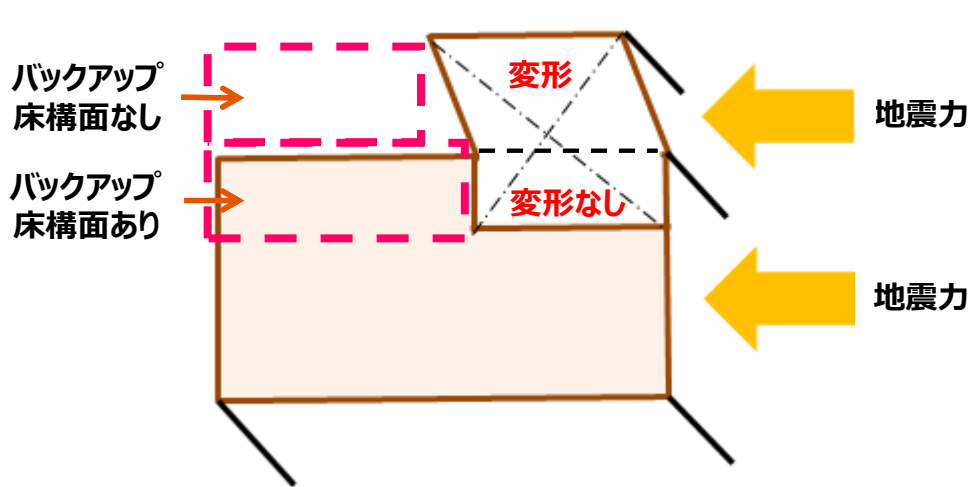
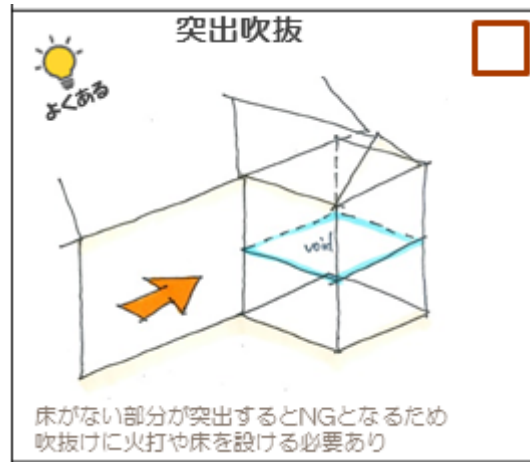
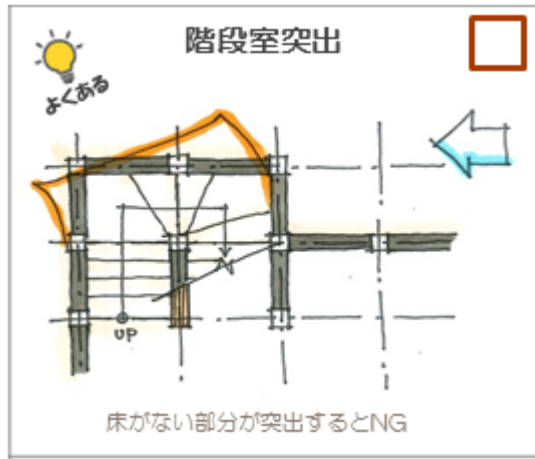
要注意項目チェックリスト

下図に該当する形状はプラン変更の可能性があります
ご不明点はLIXILへご相談ください

加盟店様外秘

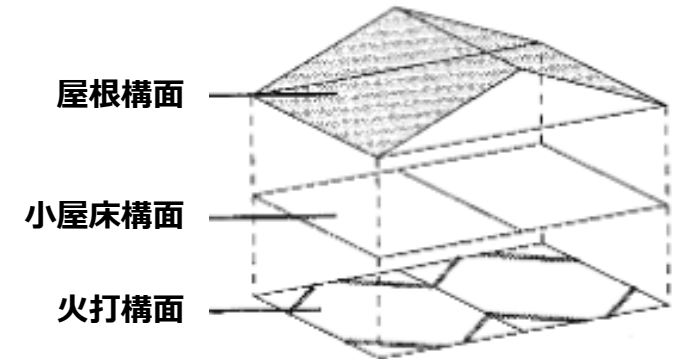
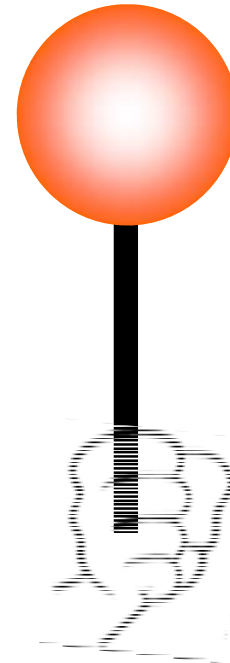
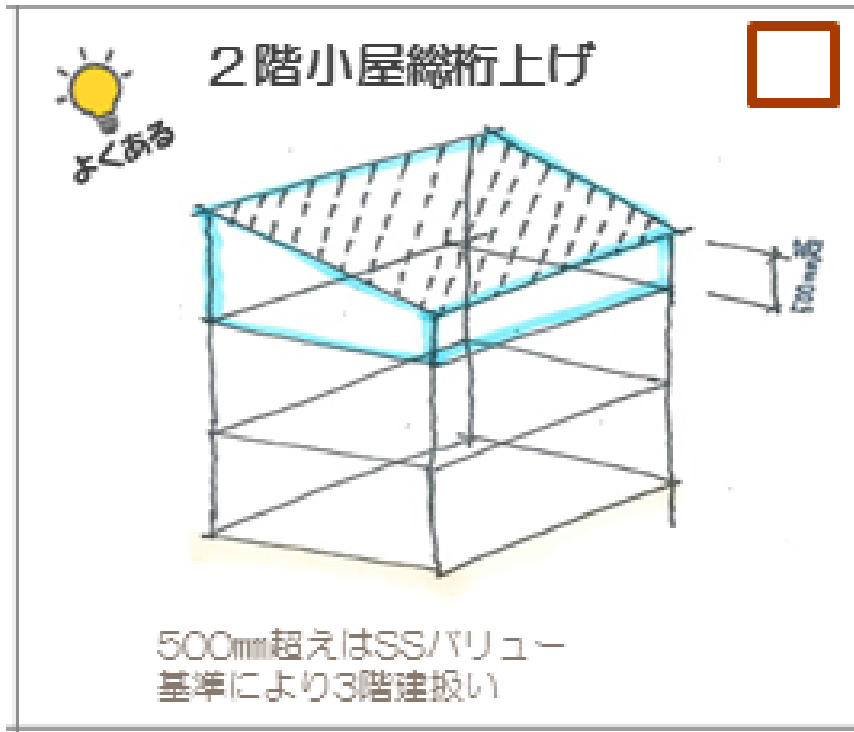
<p>寄棟の勾配天井 <input type="checkbox"/></p>  <p>母屋を受ける束と、束を受ける梁の配置が適宜必要</p>	<p>混構造 <input type="checkbox"/></p>  <p>木造屋根 異構造柱 (鉄骨柱等)</p> <p>異構造材は非構造扱いとして検討がOKか</p>	<p>くびれ形状 <input type="checkbox"/></p>  <p>くびれ部が細いと建物の弱点となる</p>	<p>雁行型形状 <input type="checkbox"/></p>  <p>接合部が細いと建物の弱点となる</p>
<p>認定外擁壁が近接 <input type="checkbox"/></p>  <p>擁壁 安息角</p> <p>安息角以深まで深基礎必要</p>	<p>深基礎950mm超 <input type="checkbox"/></p>  <p>▽ 設高 950mm超</p> <p>950mm超えは構造計算必要</p>	<p><input type="checkbox"/></p>	<p><input type="checkbox"/></p>
<p><input type="checkbox"/></p>	<p><input type="checkbox"/></p>	<p><input type="checkbox"/></p>	<p><input type="checkbox"/></p>

1 突出吹抜 (3方吹抜)



対策：① バックアップ床構面を作れるようなプランにする
② 吹抜補強(火打ち・キャットウォーク等)

2 桁上げ屋根



小屋・火打と屋根は
一体化することで
性能が発揮される

屋根が上がっているということは・・・

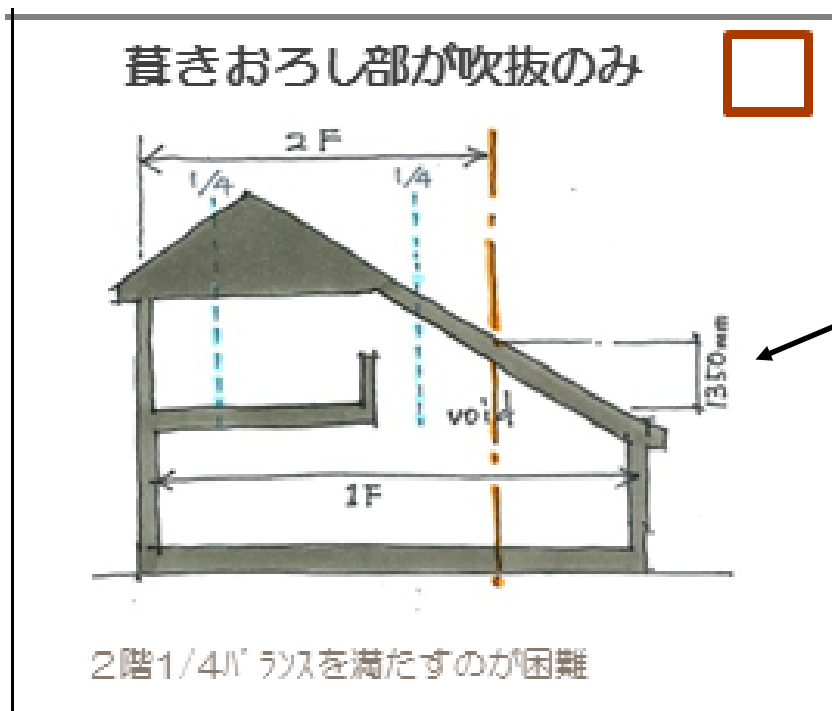
- ① 重くなる(団子UP)
- ② 屋根にかかる地震力が耐力壁に伝わらない
(団子と串の間に隙間)

対策：基本的には桁上げはNG

どうしてもという時は

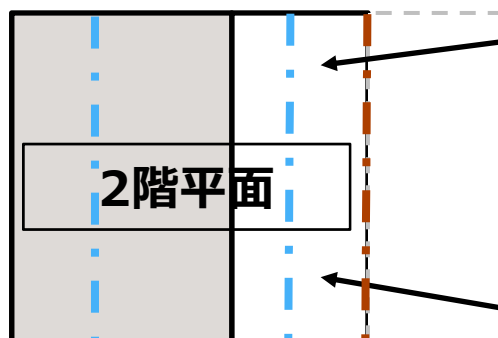
- ① 高さは500mmまで
 - ② 妻面補強(面材張り)
- ※ 許容応力度計算がベスト

3 大屋根



- 階数の境界：高さ1350mm

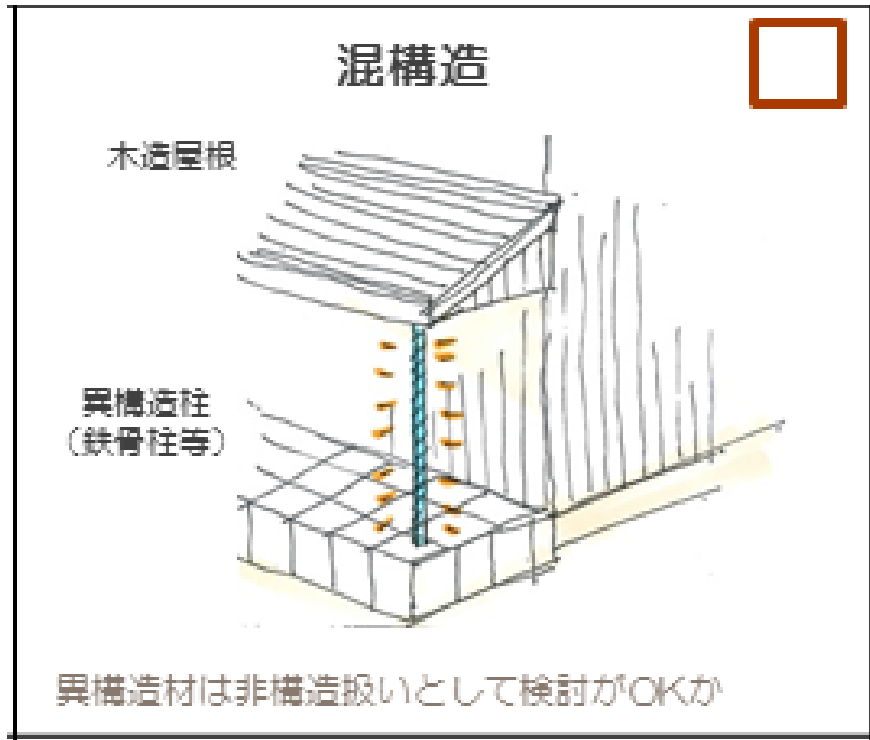
- 対策：① 2階の範囲確認
(吹抜の大きさ)
② バックアップ床確保 + 最外周壁配置



壁配置できない
(左右壁バランス検討NG)

3方吹抜

4 混構造



● たった1本でも構造材扱いしたら混構造

対策：

- ① 柱に荷重をかけない
(跳出し梁で屋根を受ける)
- ② 袖壁意匠
- ③ 柱に荷重をかける場合は
 - 1) 鉛直荷重対応
 - 2) 引抜力対応 (上階に壁)
 - 3) 劣化対策 (被覆等)

耐力値のある
金物使用

ステンレス装飾柱脚金物



電解研磨仕上げ (ヘアライン仕上げ) ブロンズ仕上げ (ヘアライン仕上げ) ボルトタイプ (ヘアライン仕上げ) カチオン塗装仕上げ

用途・特長

玄関ポーチなどに立つ独立柱を受ける装飾用の金物です。

1. ステンレスのヘアライン仕上げによりさびにくく美しいデザインです。
2. 本体内部の底板には四方に水抜き穴を設けてあります。

ボルトタイプ100角型
短期基準接合引張耐力 11.28kN
短期基準圧縮耐力 53.87kN
(社内試験)



参考資料 (BXカネシン試験データ)

本製品は告示第1460号及び構造計算には対応しておりません。参考数値としてお取り扱いください。

型番	短期基準接合耐力 (kN)	
	引張基準耐力	圧縮基準耐力
SH-90角	9.3	53.2 (26.6)
SH-100角	9.3	63.8 (31.9)
SH-118角 (ストレート)	6.9	118.0 (59.0)

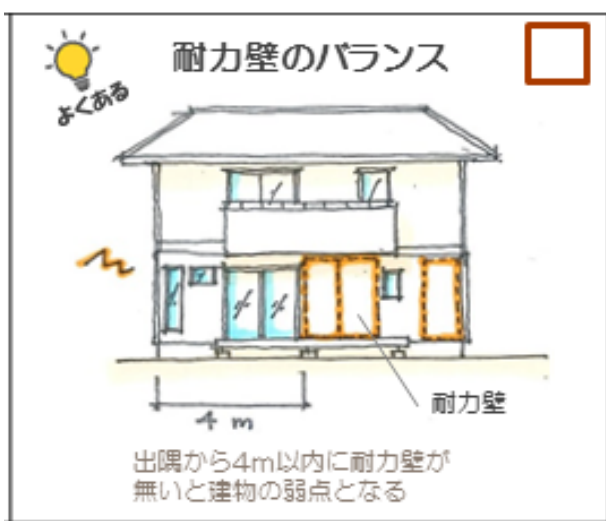
※ () 内、長期基準耐力

5 壁配置バランス (大開口)

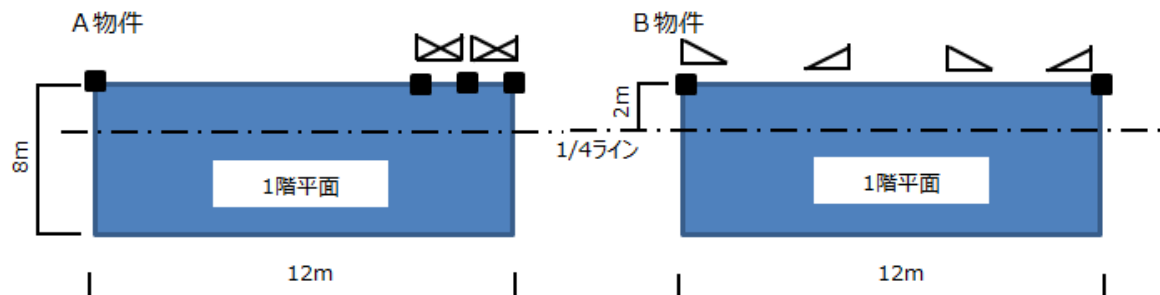


- 基準通りの壁量を配置しても配置バランスが悪いと倒壊します

【出典】
日経ホームビルダー

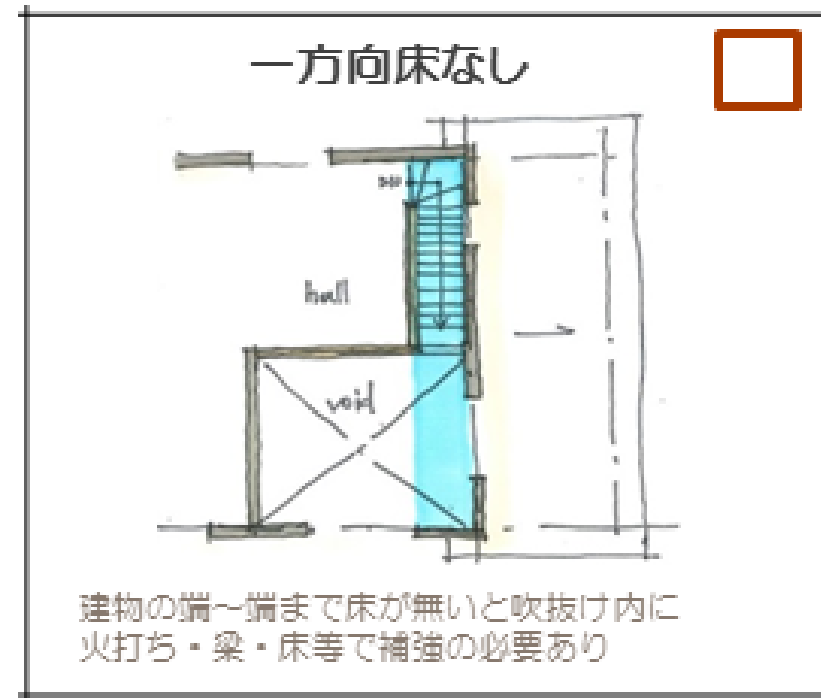
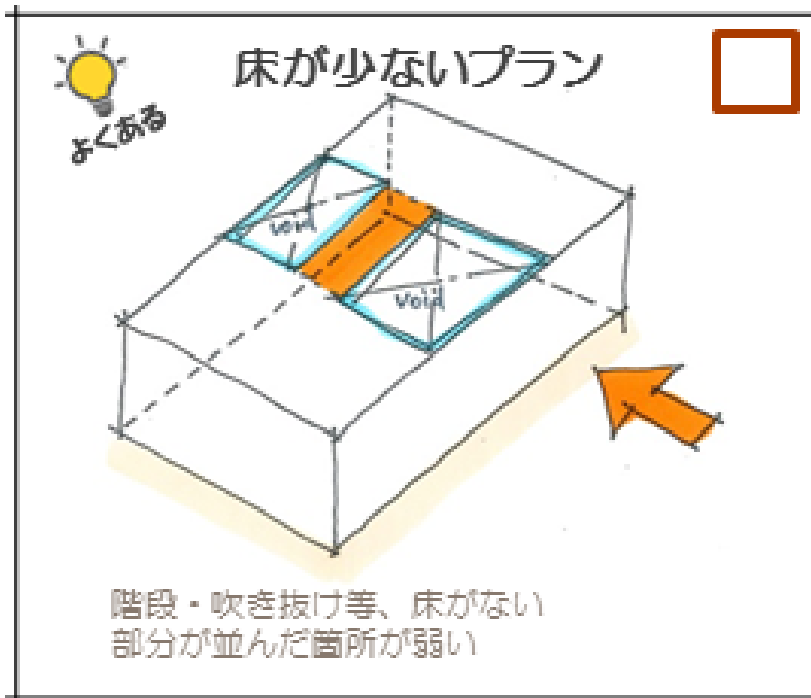


- どちらの建物も計算結果は全く一緒になります



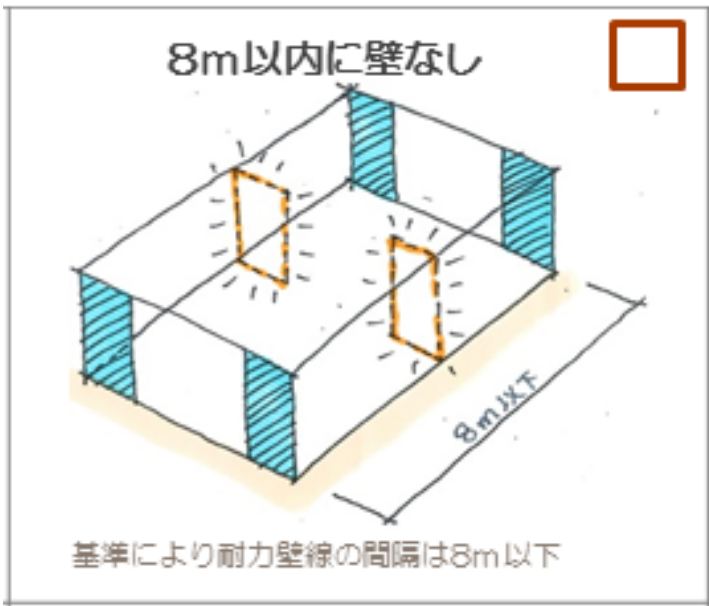
対策：開口は4mまで + すぐ横に壁を配置

6 隠れ大吹抜



対策：床範囲を確認しながら意匠図作成

7 耐力壁線



=箱をつくること

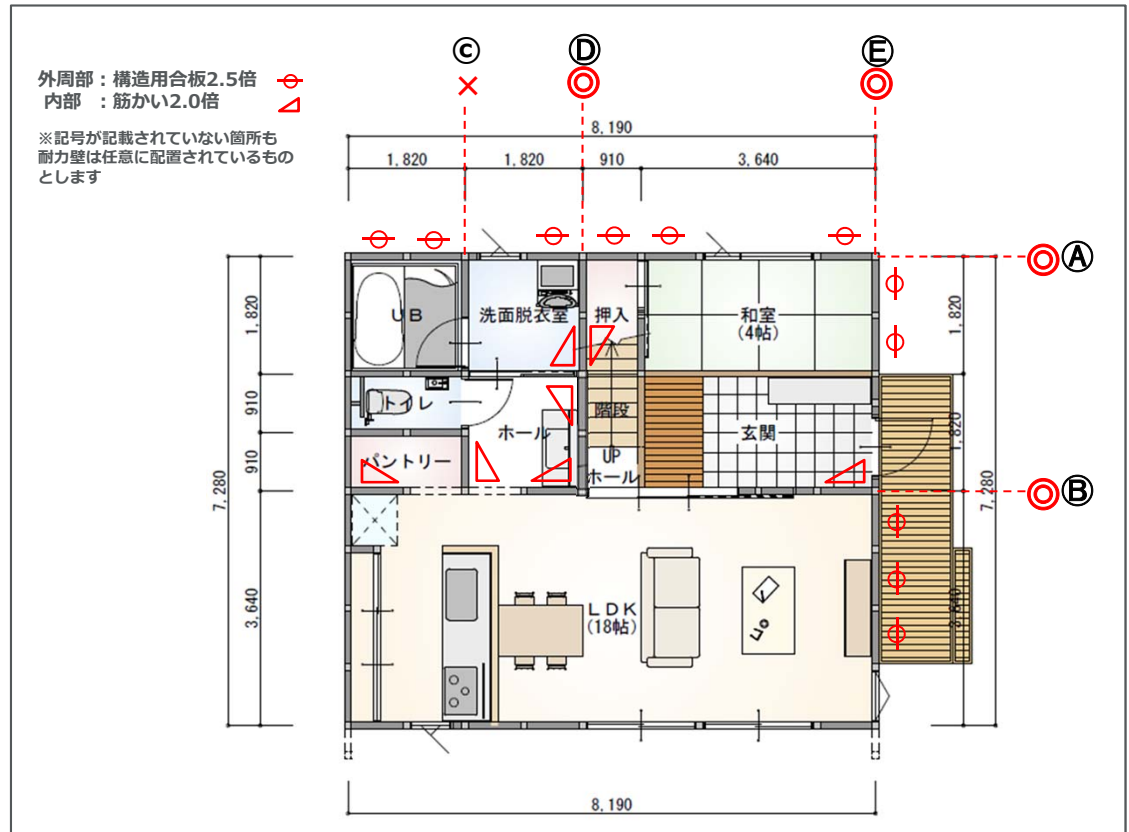


【耐力壁線となる条件】

- ① 通り芯の床の長さ×0.6以上 かつ 400cm以上の壁量
- ② 最外周壁線
- ③ 最外周壁線で①の条件を満たすもの

記号

- ◎
- ○
- ◎



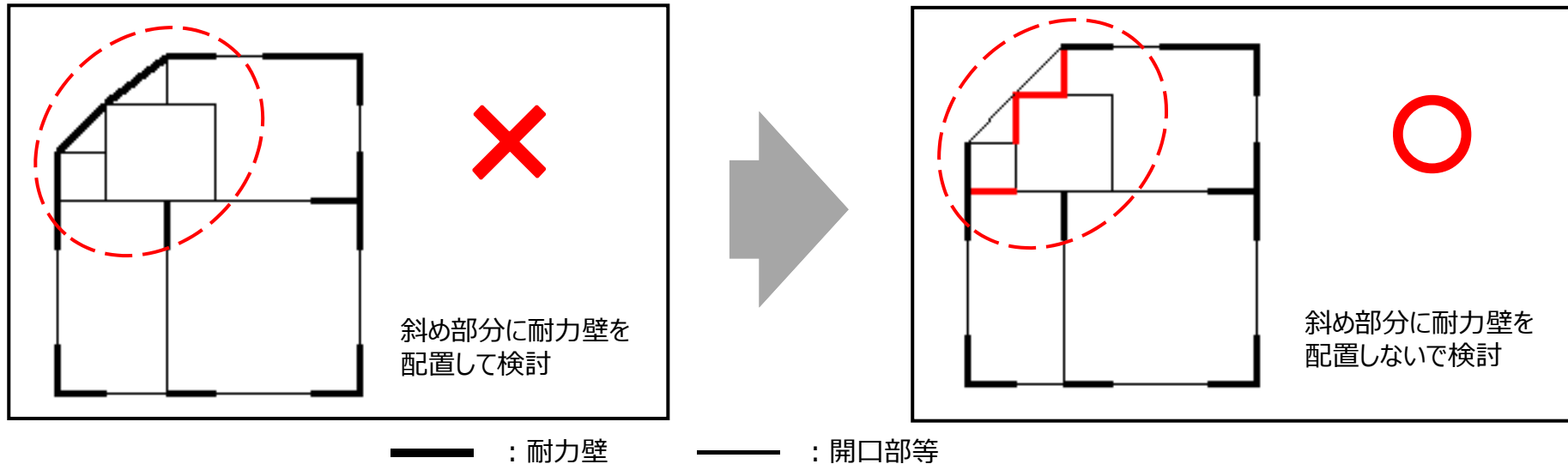
対策：

- ① 壁を最低2箇所入れられる通りを確保
- ② 通り間隔は最大で8m
⇒ できるだけ6P以内を目指す
(床補強がしんどくなります)

※ 大規模物件は個別検討必要
(14×14Pまで)

8. 斜め壁について

斜め部分の耐力壁・床構面をカウントせずに構造検討を実施します

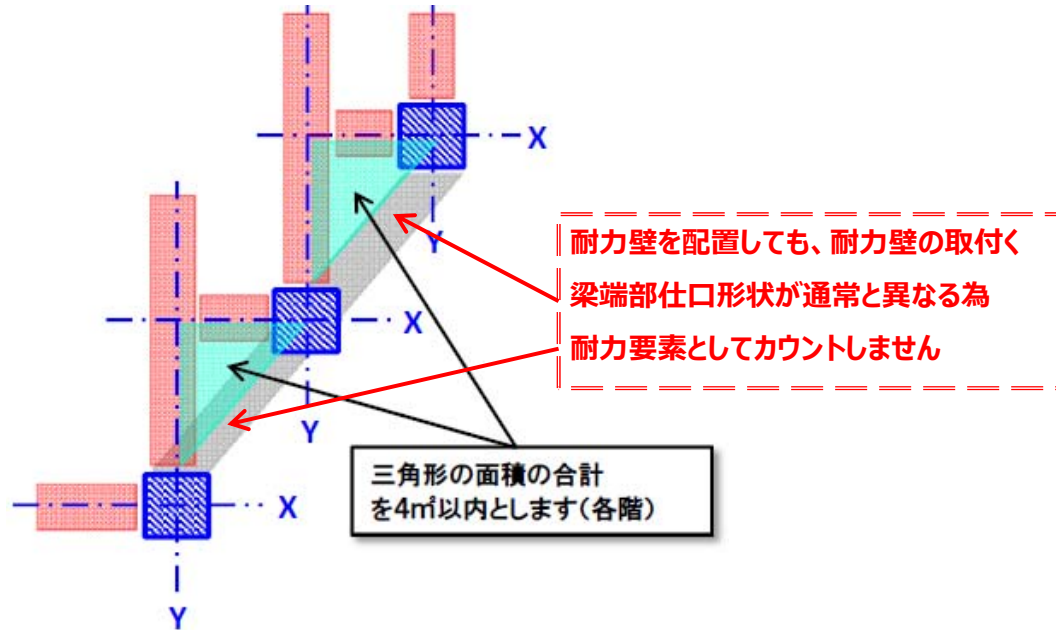


斜め部分に配置された耐力壁や床構面にも耐力は存在しますが、以下の理由によりバリューにおいては非構造要素として検討を実施致します。

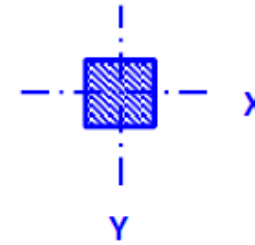
- ① 耐力壁や床構面が取付く構造材の接合部の強度低減が見込まれ、地震時に耐力性能を十分に発揮できないケースが想定される為
⇒ 柱・梁材の仕口が斜め加工になり、プレカット不可・金物工法仕口不可・現場金物補強も困難(適切な金物無)等の懸念
- ② 耐力のX・Y方向ベクトル分解が発生するが弊社構造検討ソフト(CAD)未対応の為

◎ 斜め壁詳細

《斜め部分拡大図》

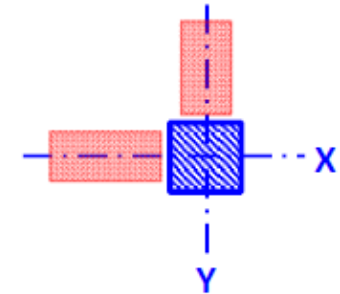


◆ 柱配置について



X軸及びY軸
に合わせる

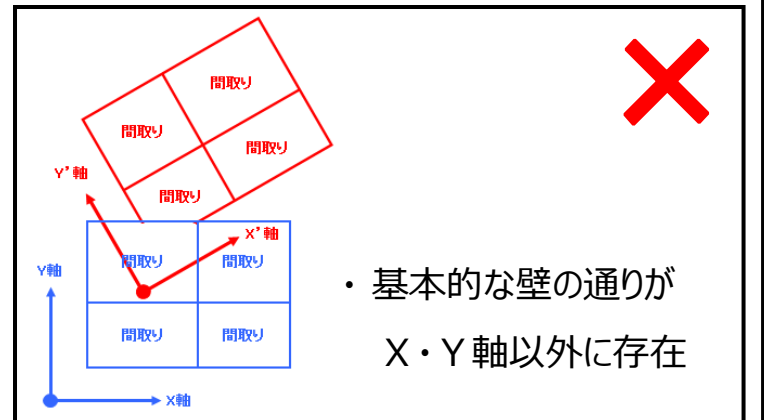
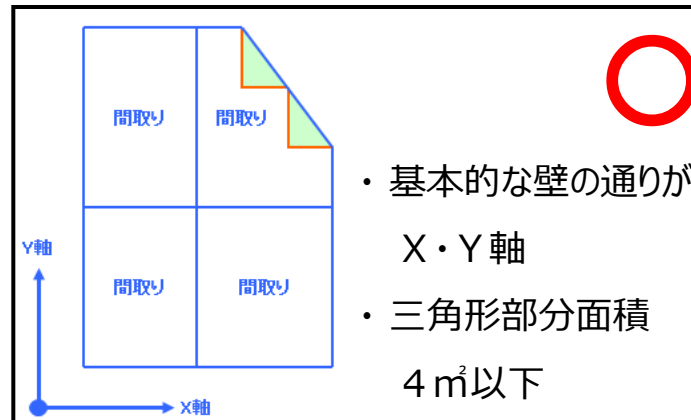
◆ 梁配置について



X軸及びY軸に合わせて
X軸及びY軸にある
柱・梁に取付

《事例》

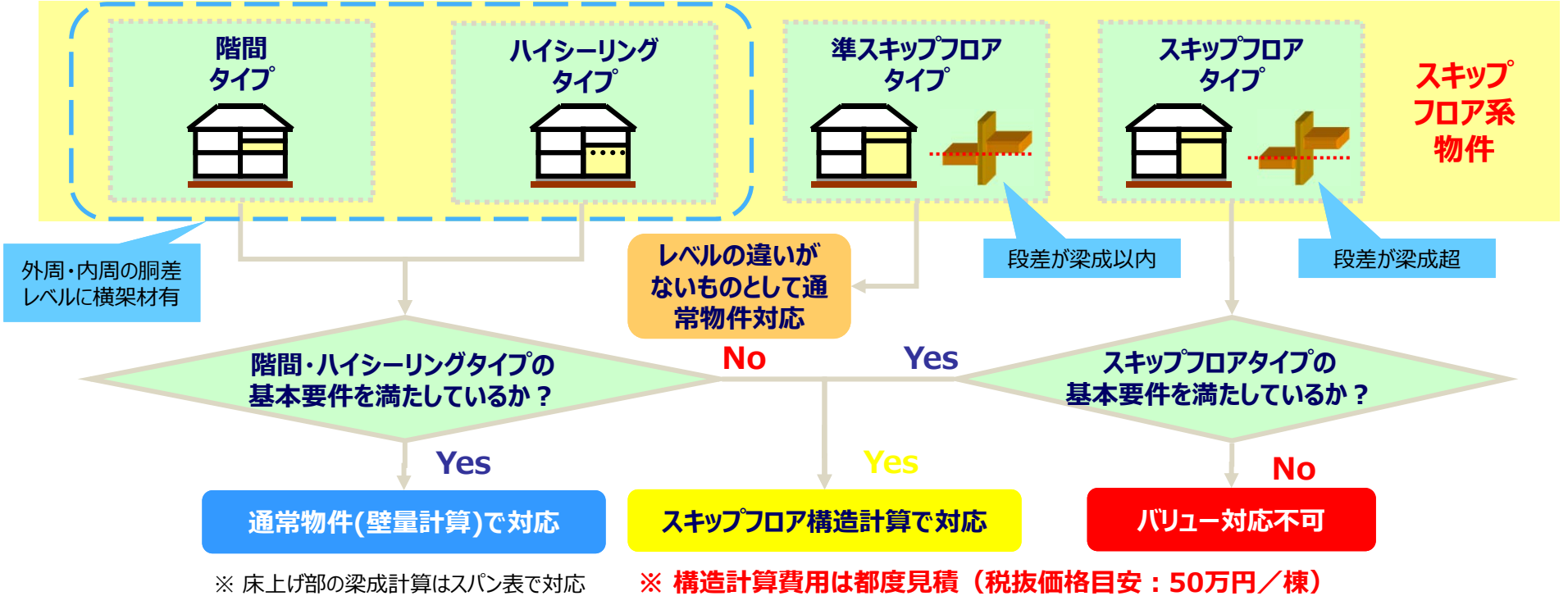
三角形部分の面積が
4 m²を超えたり、外周一面が
斜め壁である場合は
バリューを適用することが
できません



9. スキップフロア系物件について

※ 特殊なプランの場合、このフローと異なる対応が必要になることがあります。

以下のタイプ別に対応ルートが異なります。どのタイプに当てはまるかをご確認下さい。



【階間・ハイシーリングタイプの基本要件】

- ・2階の階間・ハイシーリングエリアの柱や束の直下には1階柱があること。
- ・同エリアの横架材はべいまつKD、又は、構造用集成材 対称異等級構成E105-F300以上限定。

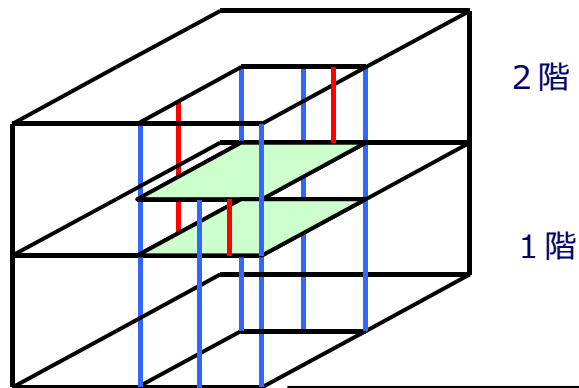
【スキップフロアタイプの基本要件】




- ・立面でスキップのエリアが左右に垂直分割出来ること。
- ・階層毎にスキップのエリアが同一形状であること。

◎ 基本要件詳細

【階間・ハイシーリングタイプの基本要件】

- ・2階の階間・ハイシーリングエリアの柱や束の直下には1階柱があること※



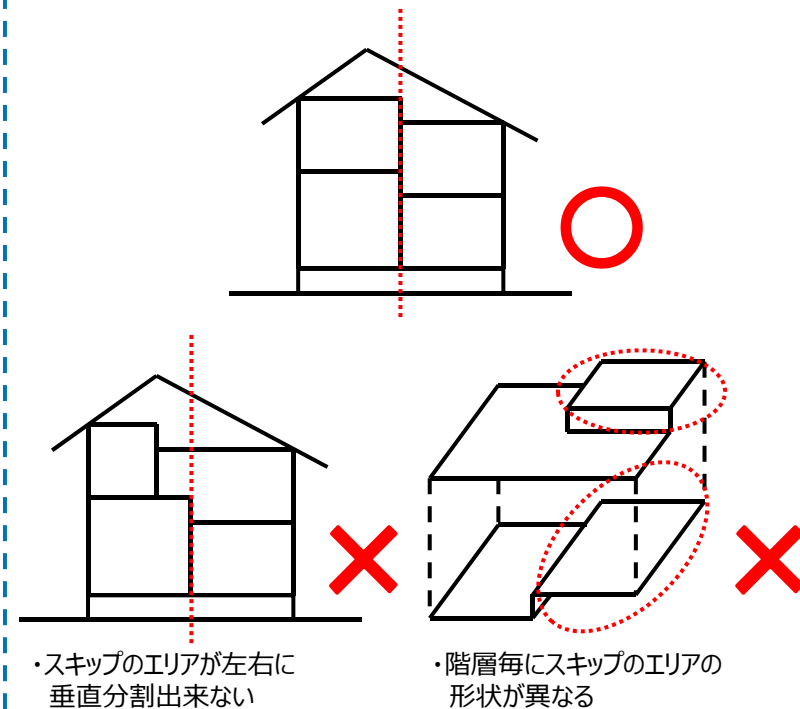
【凡例】	
	: 階間・ハイシーリングエリア
	: ○の例 (直下に1階柱有り)
	: ×の例 (直下に1階柱無し)

- ・同エリアの横架材はべいまつKD、又は、構造用集成材 対称異等級構成 E105-F300以上限定

※ 本要件を満たすためには、1階の間取りを工夫して頂く必要があります

【スキップフロアタイプの基本要件】

- ・立面でスキップのエリアが左右に垂直分割出来ること。
- ・階層毎にスキップのエリアが同形状であること。



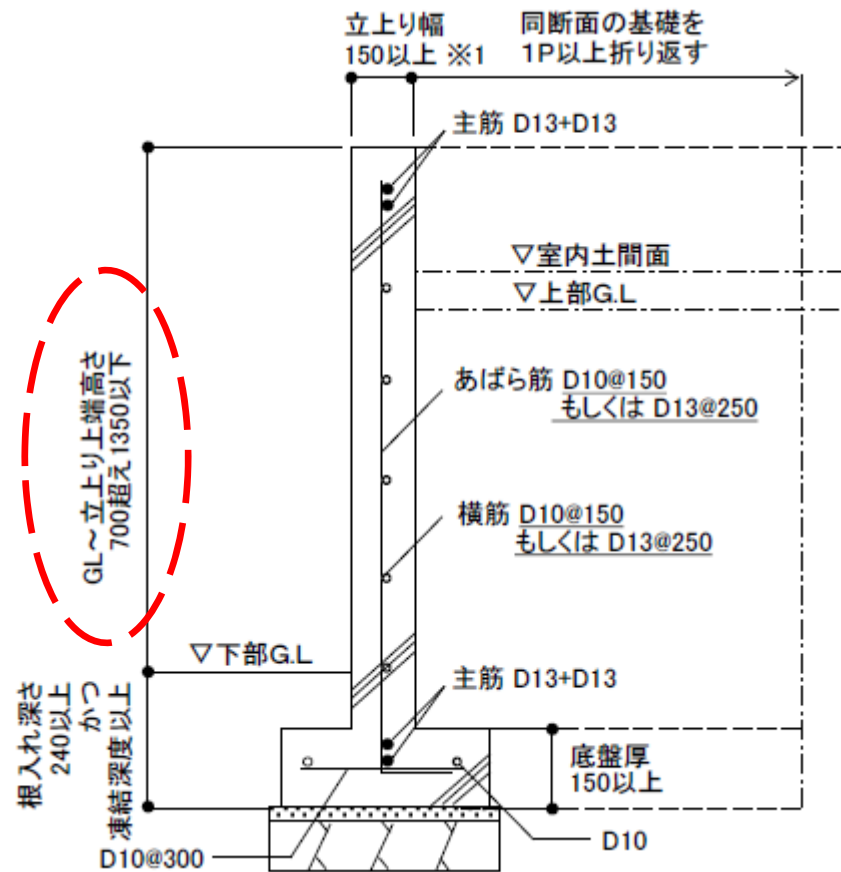
・スキップのエリアが左右に垂直分割出来ない

・階層毎にスキップのエリアの形状が異なる

10. 高基礎について

一定の立上り高さを超えた基礎断面は構造計算が別途必要になります（有償）

《バリュー基礎マニュアルより抜粋》



【赤点線内の寸法範囲内の場合】

基礎マニュアルのスパン表を適用可
(通常物件対応)

【赤点線内の寸法範囲を**超える**場合】

基礎マニュアルのスパン表を適用**不可**

別途構造計算が必要になります

(**税抜**価格：10万円)

1 1 . 擁壁がある物件について ～安全確認を実施して下さい～

以下はLIXILが考える安全確保の方法です ※ (社)日本建築学会『小規模建築物基礎設計指針』の基準を適用致します

建物周辺に擁壁がある場合は、以下のご確認をお願い致します。
なお、既存擁壁等で構造確認が取れない場合は、次ページの基準を満足するようにして下さい。

【 擁壁に作用する建築物荷重(上載荷重)を見込んで構造計算した擁壁であること】

- ・ バリユー設計検査ご依頼時に、擁壁の構造計算書をご提出ください。
計算条件が適切か実施させていただきます。
- ・ ○○市型擁壁等、行政等で規定している擁壁の場合は、図面・仕様書等で上載荷重の条件が分かる資料をご提出ください。

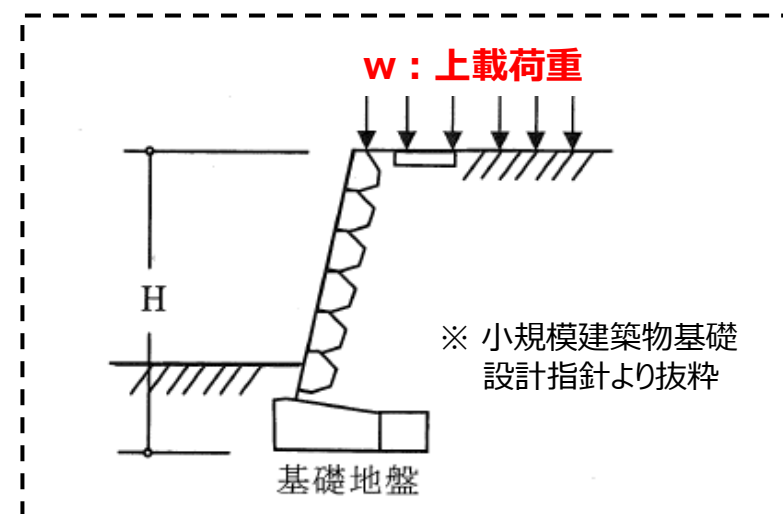
・ 上載荷重の目安

平屋建て： 5 kN/m² (0.5t/m²)

2階建て： 10 kN/m² (1.0t/m²)

3階建て： 15 kN/m² (1.5t/m²)

※または建物構造計算時の設定重量

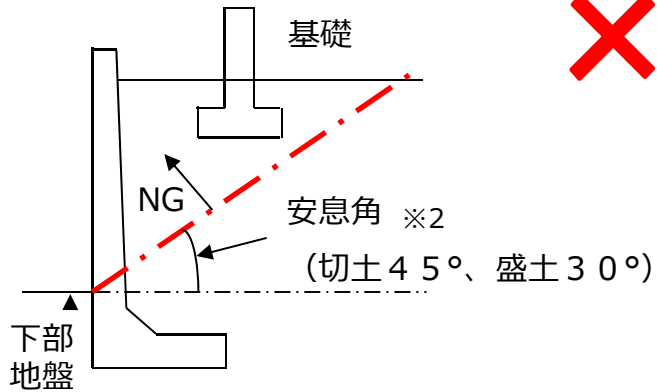


【構造確認が取れない擁壁^{※1}の場合】

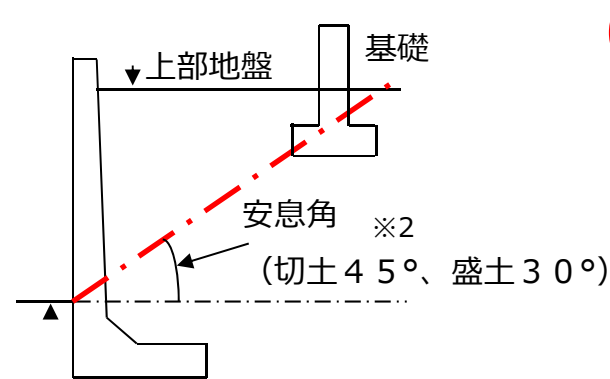
※1 カルバートの場合も同様、基礎に近いカルバートの底部を基準点とする

擁壁に建築物荷重を作用させないよう、安息角以下に基礎底面を支持させる基礎として下さい。

《擁壁の近くに基礎を浅く配置》

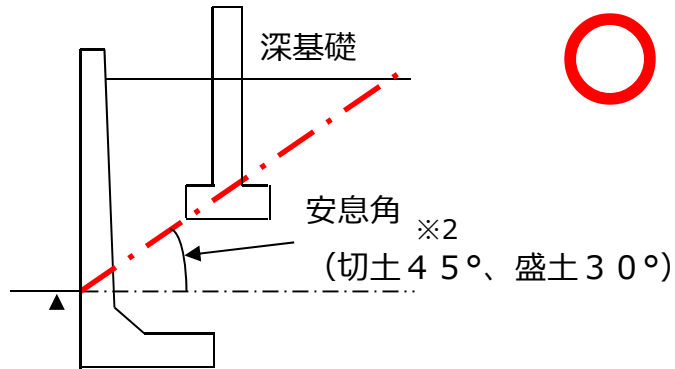


《建物を擁壁より離して配置》

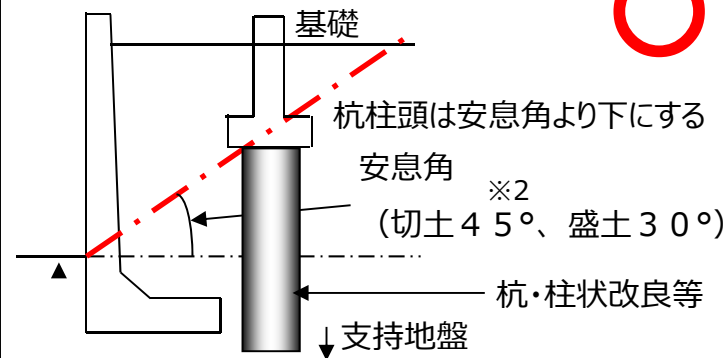


※2 切土、盛土の混合の場合は
盛土30°で判断

《基礎底面を安全な位置まで下げて配置》



《擁壁にはらみ出しの影響を与えないような基礎杭^{※3}、柱状改良等を行う》



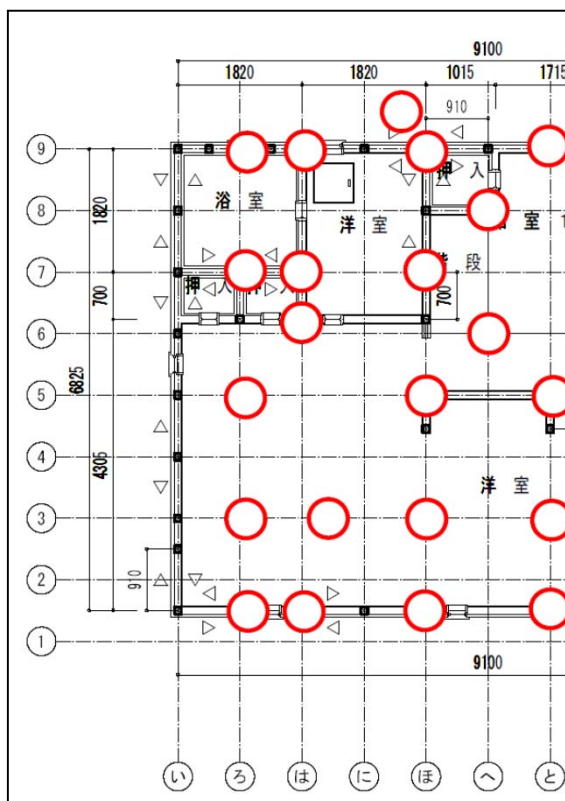
※3 杭種類(摩擦杭、支持杭等)
に関わらず全て同じ扱い

<< 耐震等級3の性能を発揮する為には、安定した地盤が必須条件になります >>

1 2. 杭偏芯について

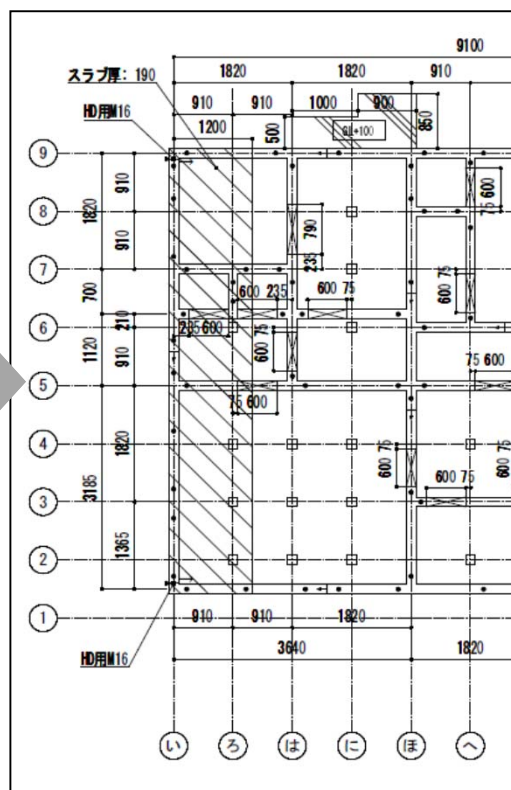
杭偏芯がある建物は片持ち基礎の検討が必要になります

《杭伏図》

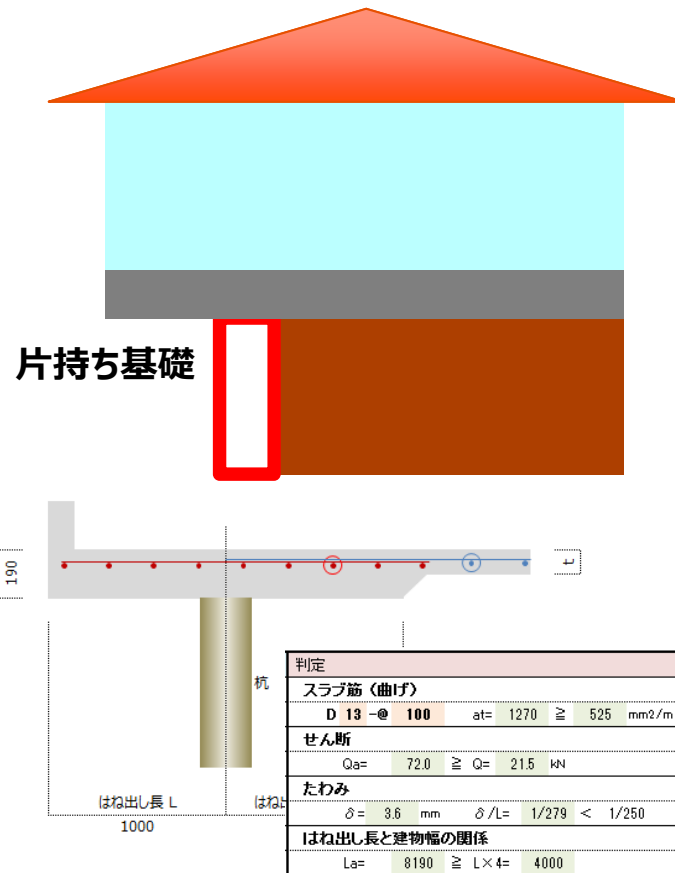


杭が外周部より1m偏芯⇒片持ち基礎

《基礎伏図》



スラブ厚を150⇒190mm(斜線部)



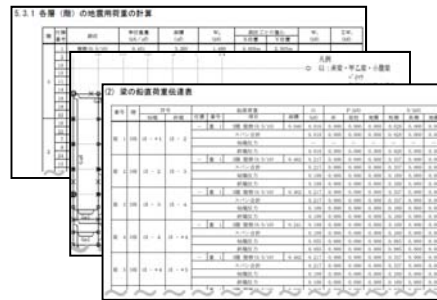
<< 杭が偏芯している場合には基礎に大きく影響しますのでお早目に杭伏図を送付ください >>

13. 申請物件(長期優良住宅・フラット35S等)における評価機関対応について

「UDI 確認検査株式会社」への申請は条件が伴います

- 壁量計算物件においても許容応力度計算(構造計算)図書一式相当の提出が必要です

- ・ 地震用荷重の計算書
- ・ 梁の略伏図及び使用材料・等級記載
- ・ 梁の鉛直荷重伝達表
など



現在、対応可能 P C 工場は
「ポラテック」「後藤木材」「清川」
3社となりますが今後拡大予定
(TOACAD工場かつ最新CADバージョン導入工場)

他の評価機関においても申請先によって提出図書・設計内容が異なります

- 評価機関の見解にばらつきがあり、対応が必要なケースがあります

【例】

- ・ 桁下げ部の火打ち配置可否
- ・ 屋上利用範囲制限
- ・ ポーチ等の地中梁検討必要可否
など

申請先に合わせた対応を実施致しますので、依頼書の評価機関欄へ
申請先のご記入をお願い致します

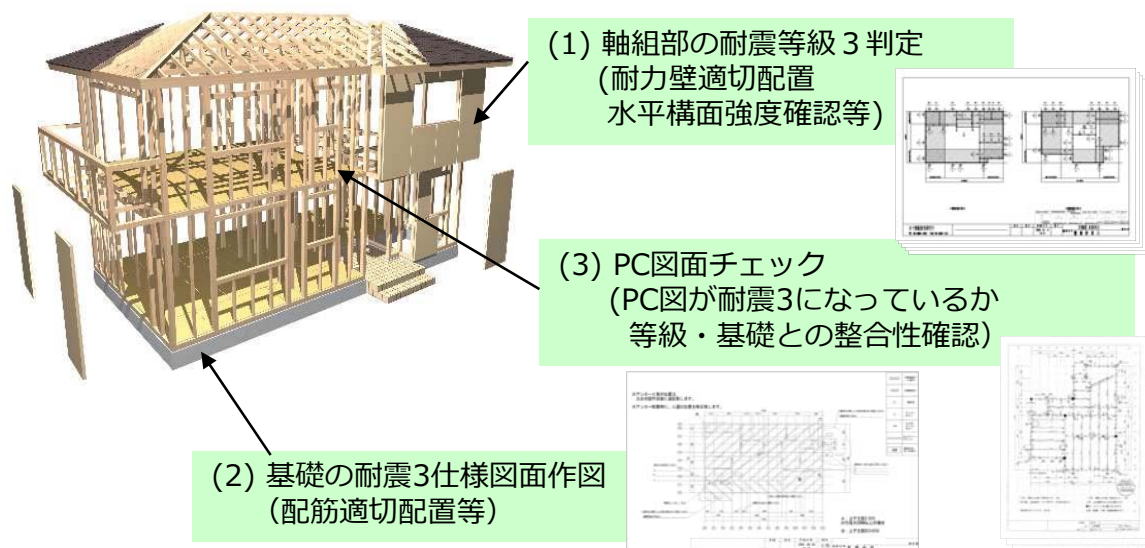
《バリュー依頼書抜粋》

■ 性能表示・構造設定 (必ずご記入をお願いします)

項目		選択項目	
申請 予定	住宅性能評価	<input type="checkbox"/> あり	〈申請先: > ※必ずご記入ください。
	長期優良住宅	<input type="checkbox"/> あり	〈申請先: > ※必ずご記入ください。
	住宅性能証明書(耐震) (※1)	<input type="checkbox"/> あり	〈申請先: > ※必ずご記入ください。
	フラット35S	<input type="checkbox"/> あり	〈申請先: > ※必ずご記入ください。
		<input type="checkbox"/> 耐震性	<input type="checkbox"/> その他

14. PCチェックについて

PC図面の整合確認を行うことで、確かな高耐震住宅をお施主様へ提供できます



「壁量・バランス」

「床(水平)構面」

「接合部」

「基礎」

「横架材」

の**全てが揃って**初めて

【耐震等級3】の住宅になります



◎ 2階建て物件で構造計算までしっかり実施したのにPC図に正しく反映されていない

⇒ 例：筋違い位置が異なって割付されている、床仕様が4周釘打ち仕様なのに井桁梁が入っていない

◎ 横架材の梁成計算において設計条件が違う

⇒ 例：小屋裏収納があるのにその荷重を見込んでいない、米ヒバ材で梁成計算したのにスギ材で加工している

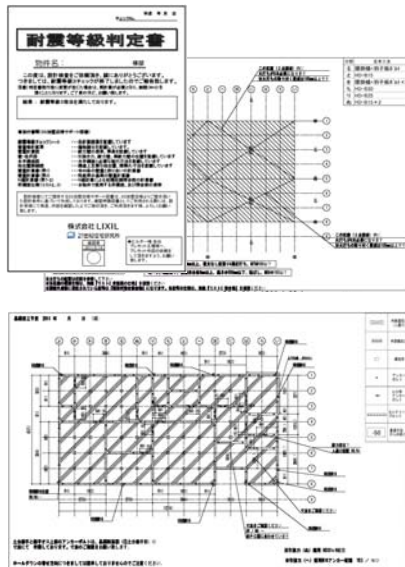
どんなに完璧な計算をしても、このような建物は【耐震等級3】の住宅とは言えません

バリューはPCチェックを行うことで真の耐震等級3住宅をお施主様にご提供できる
他には無い差別化されたパッケージング商品です

《PCチェックとは》

1、整合性確認

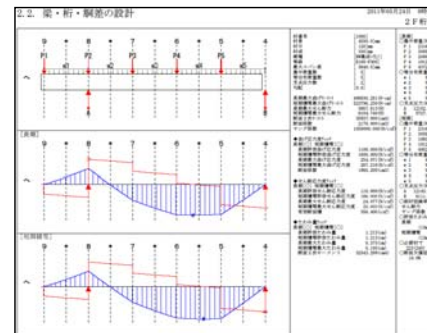
耐震等級判定書や基礎伏図とPC図との間で不整合がないかを確認します



柱・壁・土台位置の確認
金物仕様・配置位置の確認
など

2、梁成計算内容確認

建物に見合った設計条件で計算が行われているかを確認します



荷重条件・材料仕様の確認

計算結果にNGがないか確認

**PCチェックの納期を十分に確保した
工程でお願い致します**

> SSバリューの基礎



1. 木造住宅の耐震性能(耐震等級)について

住宅性能表示制度※で3つのランクが設定

《耐震等級3》が最高等級です



※ 2000年施行の法律で制定された制度



《耐震等級3》の6つのポイント

Point 1 **壁を強く(多く)**

大地震に耐えられる耐力壁の量を確保!

Point 2 **壁のバランスをよく**

偏りなく配置して「ねじれ」に強く!

Point 3 **床と屋根を強く**

建物をふたのある箱になるようにして「ねじれ」に強く!

Point 4 **接合部を強く**

強い箱になるように金物で材料を一体化!

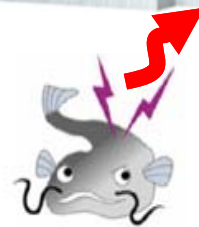
Point 5 **梁を強く**

人や家具の重さに耐えられる梁の太さ!

Point 6 **基礎を強く**

建物を支える強さを確保!

全てが揃って《耐震等級3》
の住宅になります



2. 基礎の違い①

※ 出典  構造塾

2つの基礎の違いがわかりますか??

基礎【A】



基礎【B】



どちらもしっかり配筋された強そうな基礎に見えますが・・・

2. 基礎の違い②

※ 出典  構造塾

基礎【A】 構造計算していない基礎

Point 1 人通口の鉄筋が切れている

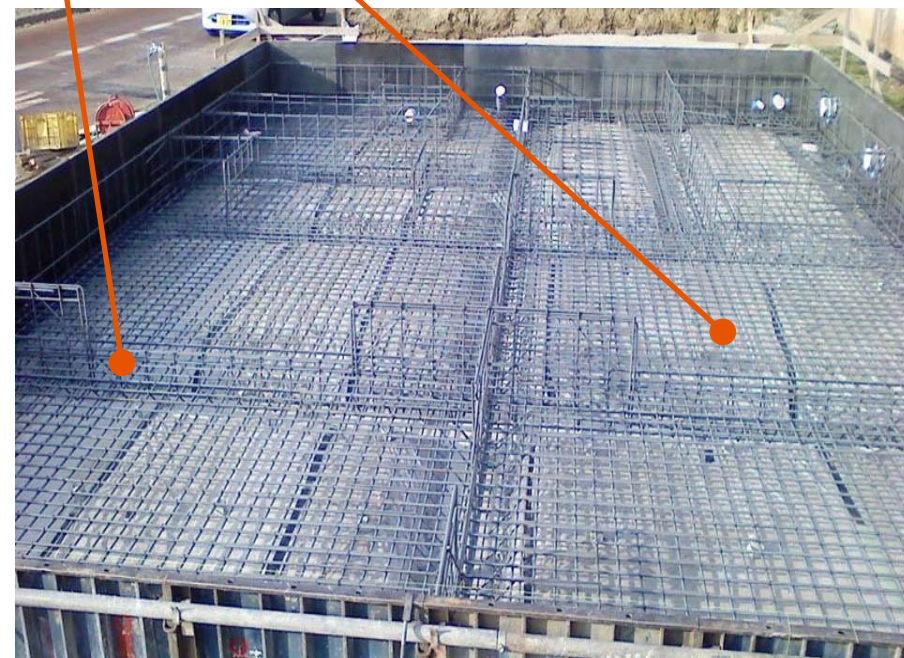
Point 2 基礎スラブの鉄筋がどこも一緒



基礎【B】 構造計算している基礎

Point 1 人通口が補強されている

Point 2 基礎スラブ区画毎に鉄筋径が変化



見る人(構造のプロ)がみれば瞬時にわかってしまうのです！

3. 基礎のメカニズム（力のかかり方）

※ 出典 **構造塾**
structure塾

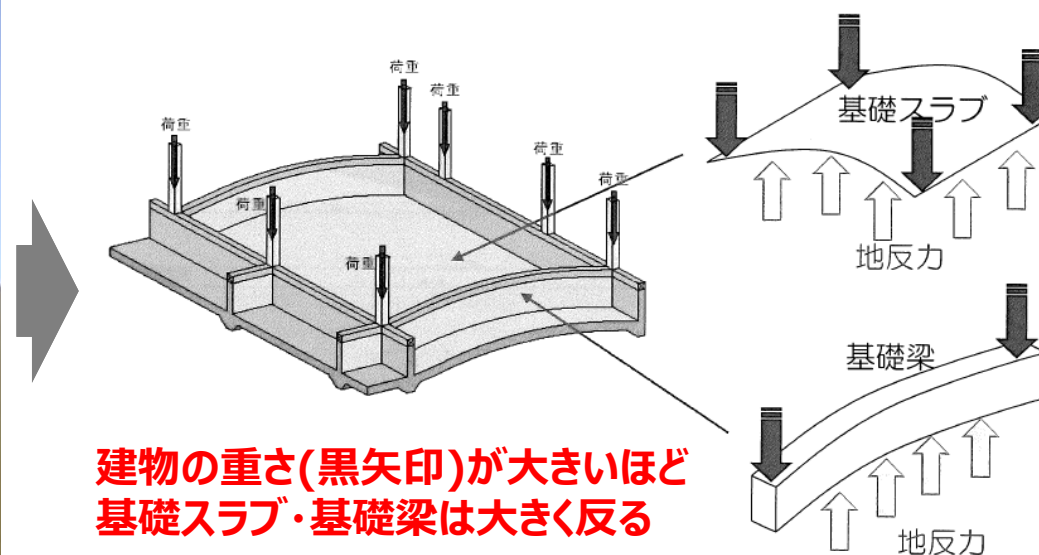
基礎模型



建物の重さが柱を伝って基礎にかかると
基礎スラブ・基礎梁は上に反る

この力に耐えられるか確認するのが
基礎の構造計算

基礎イメージ図

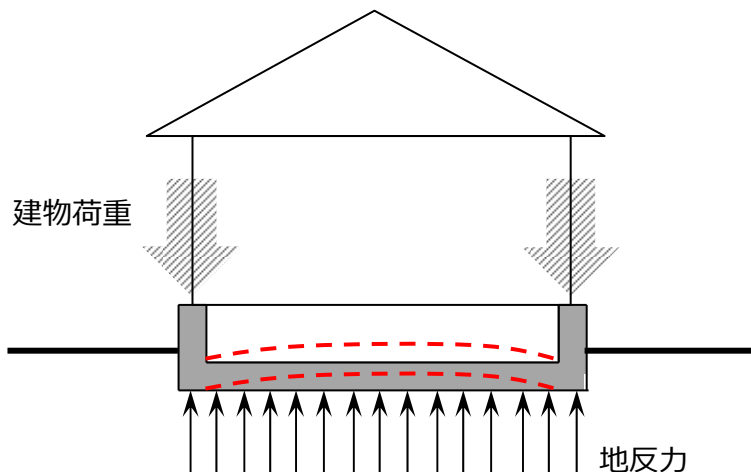


【基礎の構造計算】

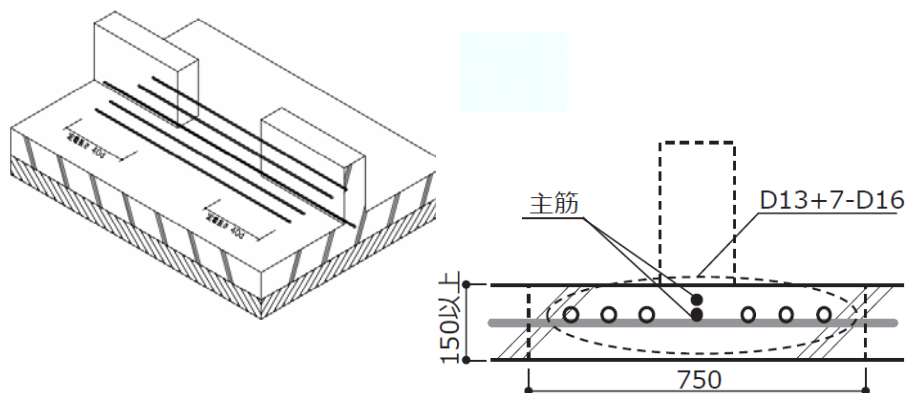
- ① **基礎スラブ**区画が大きいと反りも大きい
⇒ 鉄筋UP
- ② 柱間長さが大きいと**基礎梁**の反りも大きい
⇒ 鉄筋UP
- ③ **基礎梁**に欠損(人通口)があると破壊
⇒ 補強

4. SSバリューの基礎

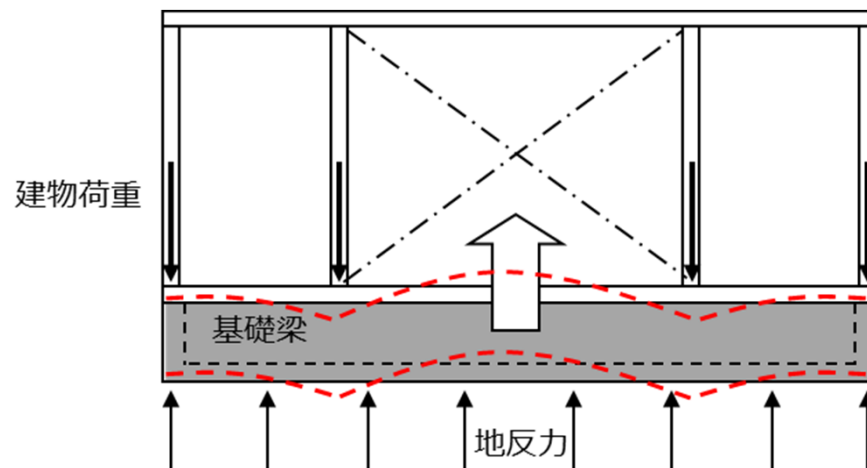
① 基礎スラブ検討



③ 人通口検討



② 基礎梁(柱間)検討

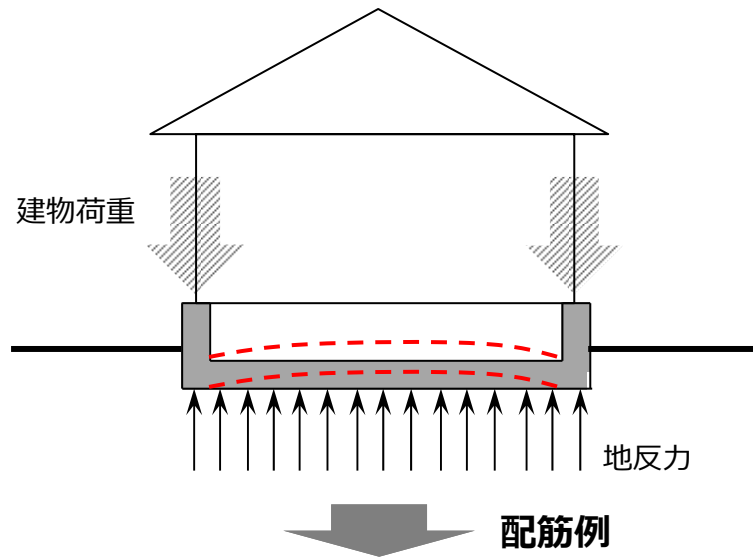


**SSバリューの基礎は
①②③を部位毎に全て計算！**

**必要なところにはしっかり配筋
不要なところには余計な配筋はしない**

安心・安全＋経済性を両立！

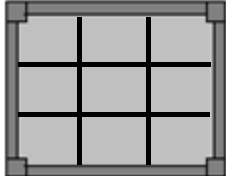
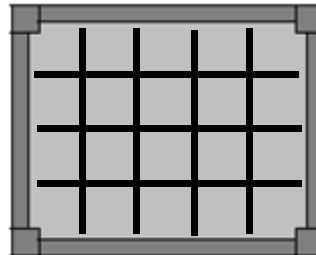
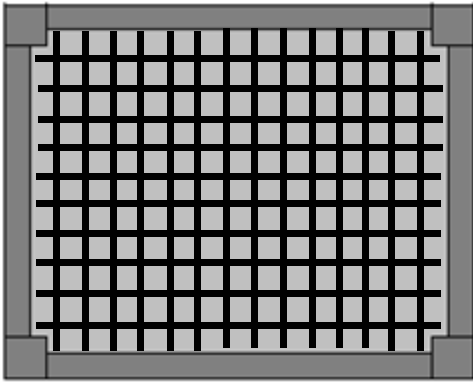
5. SSバリューの基礎 ～① 基礎スラブ検討～



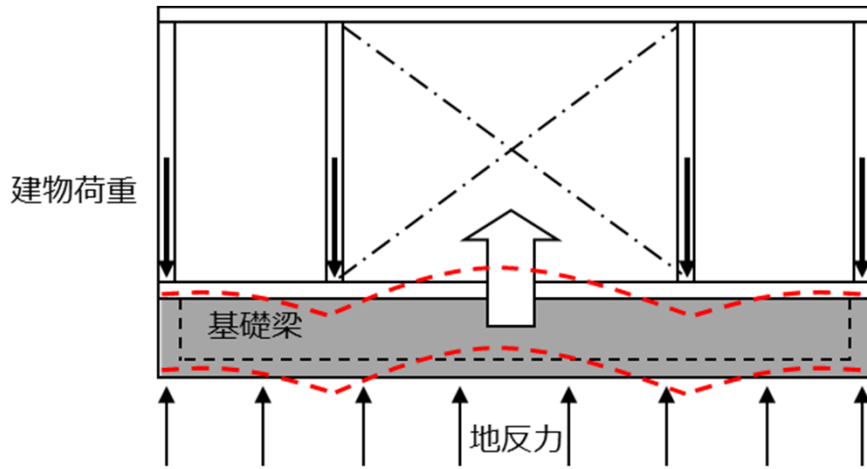
Point

基礎スラブ区画の大きさ毎に配筋を決定

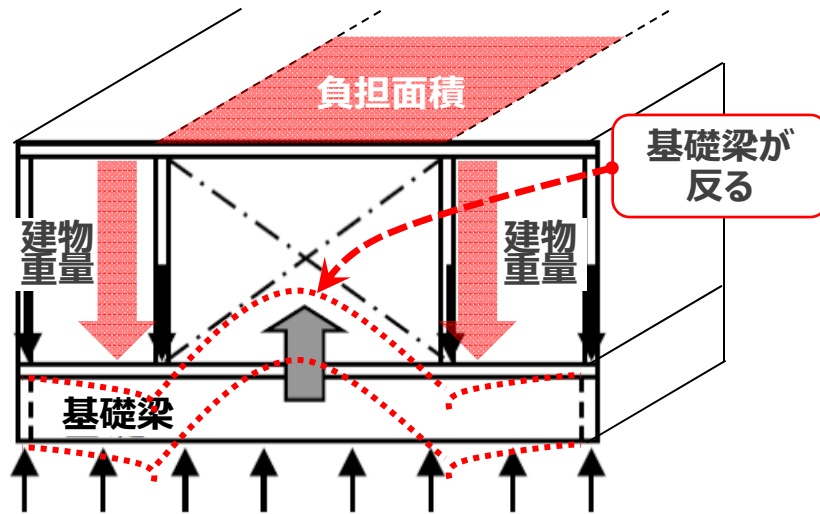
※ 一番配筋の多い仕様で統一すれば構造計算不要にできますが、非経済的なので採用していません

スラブ区画：小	スラブ区画：中	スラブ区画：大
 <p>鉄筋太さ：10mm 鉄筋ピッチ：200mm</p>	 <p>鉄筋太さ：13mm 鉄筋ピッチ：200mm</p>	 <p>鉄筋太さ：13mm 鉄筋ピッチ：100mm</p>

5. SSバリューの基礎 ～② 基礎梁(柱間)検討～



概念図



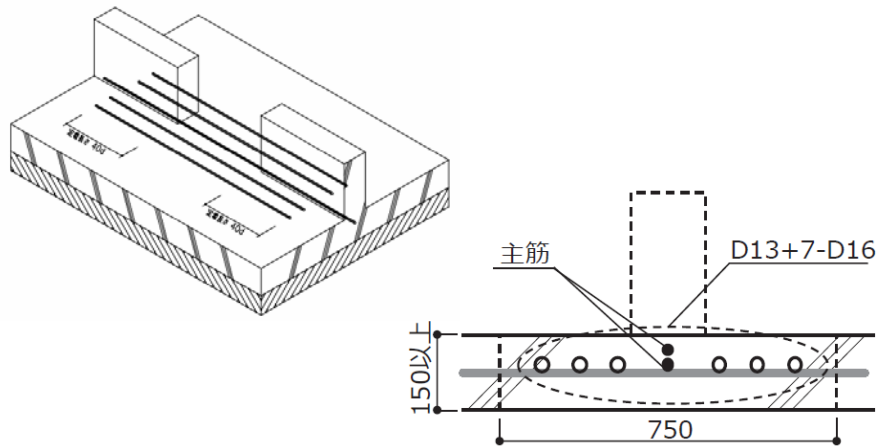
Point

柱間長さ・負担面積の大きさ・建物重量を部位毎に計算して配筋を決定

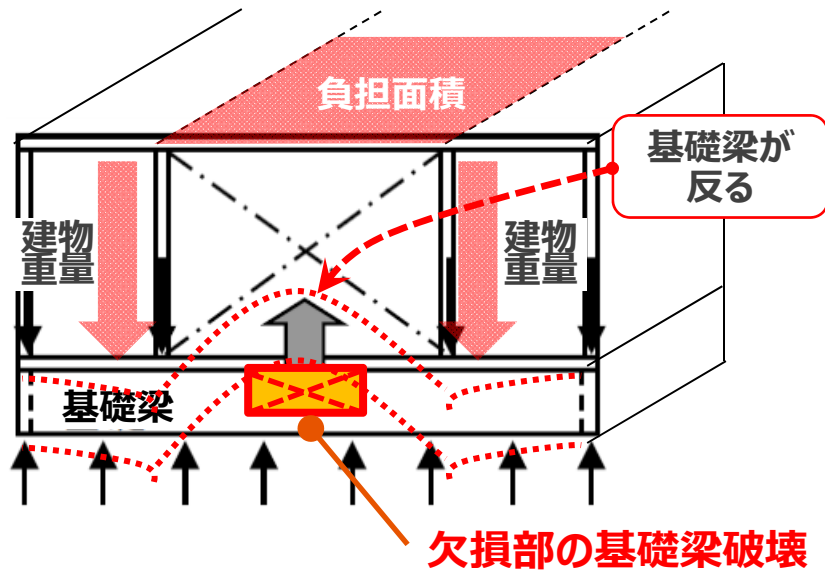
※ 基礎スラブ同様、不要な配筋はしていません

配筋決定要素	配筋量	
	UP	DOWN
基礎梁の反り	大	小
柱間長さ(柱間隔)	長い	短い
負担面積	大きい	小さい
建物重量	重い	軽い

5. SSバリューの基礎 ～③ 人通口検討～



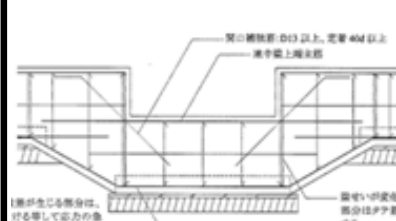
概念図



Point

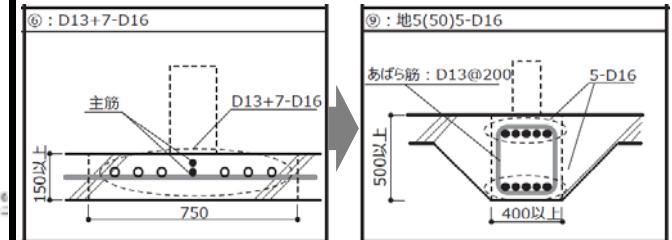
1. 柱間長さ・負担面積の大きさ・建物重量を部位毎に計算して配筋を決定
2. 鉄筋コンクリート(RC)造基準『T型梁』の設計手法を導入し経済設計を実現!
 ≪高度な設計手法導入≫

一般的な補強例



欠損部の下を地中梁仕様で補強

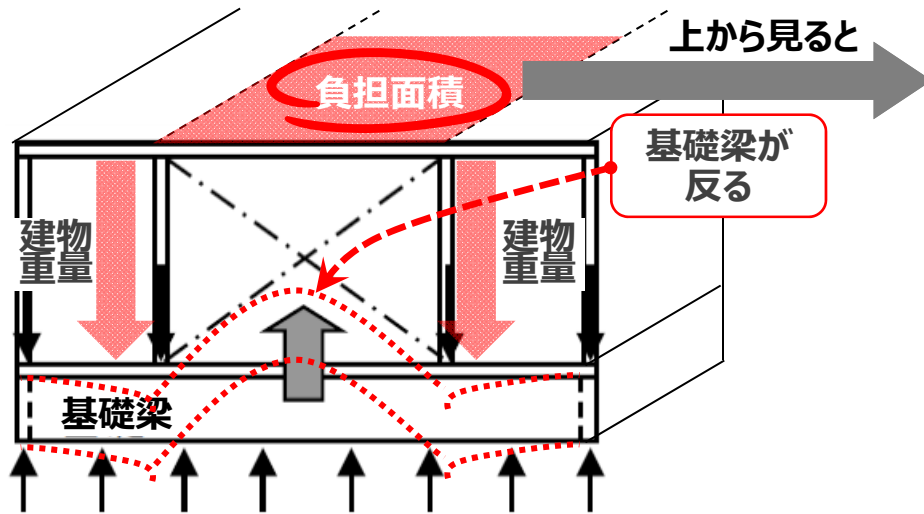
SSバリューの補強例



T型梁(スラブ活用)仕様をまず検討
 NGの場合は地中梁仕様で補強

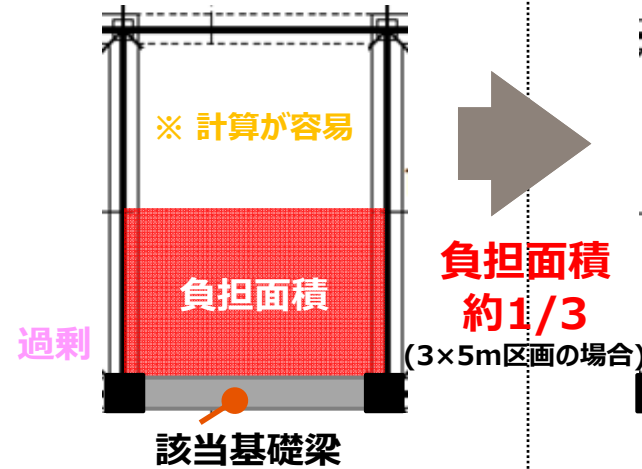
5. SSバリューの基礎 ～コストダウンの工夫～

負担面積の算出方法について



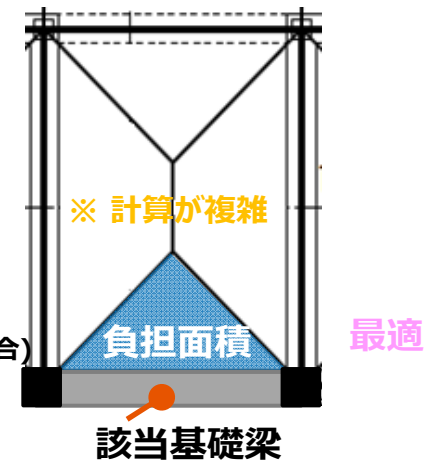
一般的な負担面積

〈簡易計算〉 (世間採用率: 高)



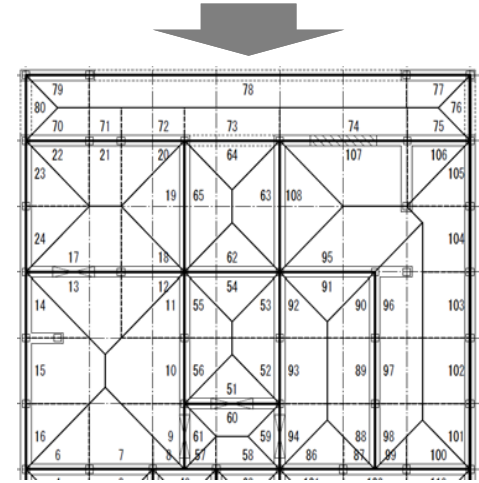
SSバリューの負担面積

〈詳細計算〉 (世間採用率: 低)



Point

負担面積を詳細に算出して必要最小限の面積で計算することでコストダウンを実現
 ≪高度な設計力を発揮≫



SSバリューの負担面積図 (亀甲分割)

5. SSバリューの基礎 ～設計品質の確保・向上～

オリジナル構造計算ソフト活用による設計自動化



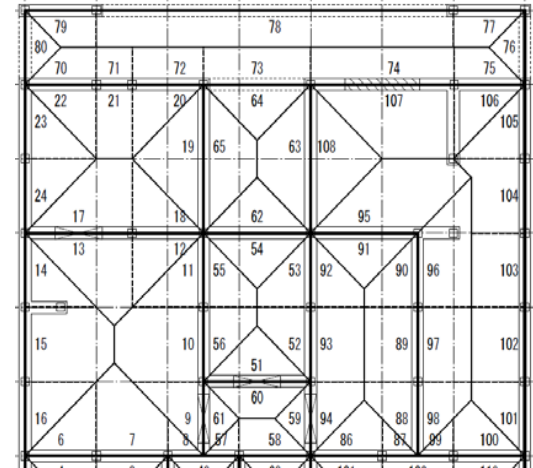
INPUT



OUTPUT



〈負担面積図の自動生成〉



〈SSバリュー基礎ノウハウが盛り込まれたソフトで設計〉

設計ミス防止・コストダウン実現！

経験豊富なプロ集団による設計



保有資格	所属人数
構造設計 一級建築士	2
一級建築士	6
二級建築士	11

Point

設計自動化による設計品質の安定とコストダウンの実現

精鋭部隊による安心の設計

6. こんなことはありませんか? ~増えているケース1~

① お施主様からの基礎への質問

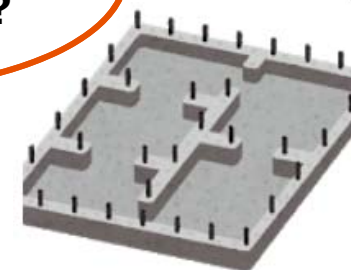
基礎設計はどのような
考え方でやっているの?



最近はお施主様も勉強しており
自らの住宅をよりよくなる努力を惜しみません

② お施主様による現場確認

この配筋は
足りないのでは?



最近プロ(建築士)を引き連れて現場確認に来ます

対応を誤ると...

トラブル

工程遅延

対応費用

手直し

解体~再施工

裁判

SSバリューの基礎なら安全性の説明がばっちりです!!



7. まとめ

いかがでしたか!?
SSバリューの基礎は
安心・安全とコストを両立した
どこにも負けない差別化された
最強の仕様なのです!
ぜひご活用をお願い致します!!

参考. 建築基準法で定められている基礎仕様について

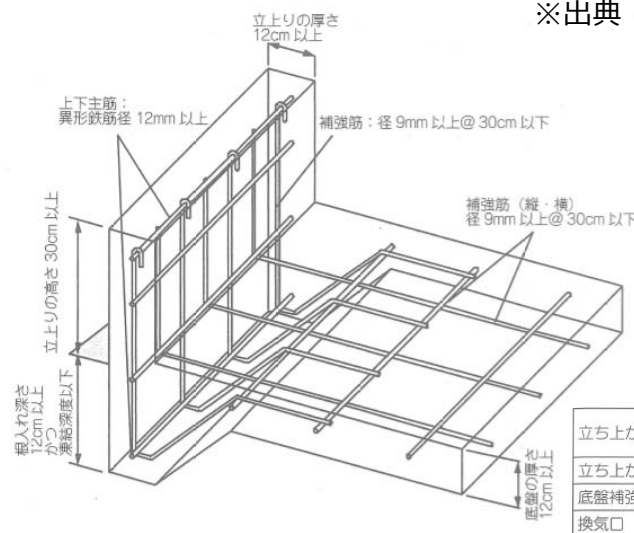
建築基準法 第1条 (目的)

この法律は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する**最低の基準を定めて**、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

建築基準法を守っても担保されているのは**最低基準のみ**です

平成12年 建設省告示 第1347号 (基礎基準)

※出典 (財)日本建築センター発行
ひとりで学べる住宅基礎の構造設計演習帳



基礎梁主筋・補強筋、
基礎スラブ補強筋、
換気口(人通口)に
ついての**最低基準のみ**
設定

立ち上がり部の主筋	径 12mm 以上の異形鉄筋を立ち上がりの上下端に 1 本以上設置。補強筋と緊結
立ち上がり部の補強筋	径 9mm 以上の鉄筋を間隔 30cm 以下で縦に設置
底盤補強筋	径 9mm 以上の鉄筋を間隔 30cm 以下で縦横に設置
換気口	周辺を径 9mm 以上の鉄筋で補強

Point

建築基準法・告示を守ること ≠ 安全な基礎

建築基準法や告示に定められている基準(仕様規定)は、標準的な住宅(形状・規模・重さ)を想定して設定された最低限の決まりであり、どんな建物でもどんな部位でも同じ仕様でOKとなります。

耐震等級3の建物にはなりません！

LIXIL

Link to Good Living